

政務活動費 視察・研修会等 報告書(一心会)

視察都市 福岡県みやま市

視察日時 令和 5 年 10 月 25 日 (水) 14 時 30 分 ～ 16 時 00 分

訪問先 まいピア高田
〒839-0215 福岡県みやま市高田町濃施 14

参加者 園田基博 工藤英人 北川久人 石渡宏明 小島 強

視察目的 みやま市あいさつ日本一運動について

説明要旨

- ・説明担当者 みやま市あいさつ推進室長 牟田口 清 氏
- ・対応者 みやま市教育委員会 教育部長 藤吉 裕治 氏
みやま市議会事務局 参与 田中 裕樹 氏

◎ みやま市の概要:

- ・ 福岡県の南部に位置。
面積 246.71km²、人口 35,191 人(2023 年 03 月末日)
2007 年に瀬高町、高田町、山川町の 3 市が対等合併しみやま市発足します。
- ・ みやま市スマートエネルギー株式会社は、福岡県みやま市と株式会社筑邦銀行、九州スマートコミュニティー株式会社の出資により電力の地産地消を目的とし、設立しました。地方創生モデルケースとして分散型・自立エネルギーシステム構築を目指しています。
- ・ 少子高齢化都市であり、毎年約 500 人減少しています。
- ・ 義務教育課程の児童生徒数が 2500 名を切っています。2023 年に学校再編計画を策定しています。中学校については 4 校から近い将来 3 校にする予定です。小学校については 15 校から 7 校に再編成しています。みやま市の教育理念を「やまに学び みやまを愛し みやまに貢献

する人づくり」としています。「あいさつ日本一運動」とは、あいさつを通して、お互いを認め合い、支え合う取り組みの一環であります。

- ・ ワンヘルス教育に取り組んでいます。福岡県主導による全国初「ワンヘルスセンター」整備計画に合わせて、みやま市では、「ワンヘルス総合推進室」を2023年4月に新設しています。

「ワンヘルス (One Health)」とは人の健康、動物の健康、環境の保全を一つとして捉え、医師や獣医師、環境の専門家や研究者だけでなく、みんなで考えて行動しようという社会活動です。

ワンヘルスの目的は、私たちが住んでいる地球の環境をまもること、そして健全な地球で、人も動物も健康に生きることです。

◎あいさつ日本一運動の概要

あいさつ日本一運動の創始者は都 英幸氏であります。地域社会での基本的行動が重要としています。平成10年4月都英幸校長が高田町立に二川小学校に赴任し、あいさつ運動を始めます。平成16年4月都英幸氏の退職後、自宅近くの交差点で毎日あいさつ運動を開始します。平成16年6月あいさつボランティア大使として地域の小学校を廻り、あいさつの大切を話しています。あいさつ名人認定書を手作りではじめています。平成17年11月高田町あいさつボランティア協会を設立しています。平成18年5月第1回小学生あいさつチャンピオン大会を開始しています。平成21年3月にみやま市議会で「あいさつ日本一宣言都市・みやま市」を全員一致で採択されています。平成22年9月「みんなで明るくあいさつをしよう会」から全国表彰を受賞しています。平成24年1月第1回みやましあいさつ日本一運動市民大会をはじめます。平成29年度みやま市あいさつ運動推進委員会の総会であいさつ日本一の歌として「みやまの陽（あかり）」採択され各関係団体に配布されています。最近の取り組みとして市役所内であいさつ運動の大切さを朝の放送をしています。

◎あいさつ日本一運動推進について

- ・ 社会には、数えきれない多くのあいさつがあり、私たちは相手と接するとき、あるいは別れるときに、その言葉を上手に使い分けて、コミュニケーションをとっています。

- ・ あいさつは、他人同士が出会って接するとき、最初に投げかけられる言葉や仕草のことであり、人間関係をスタートさせるためのコミュニケーションの第一歩であり、基本といえます。

- ・あいさつをするときのポイントは、「(あ) かるく、(い) つも、(さ) きに、(つ) づけて」とされています。まずは、相手にきちんと伝わるあいさつをするために、相手の目を見て、明るく、笑顔で、元気よく心を込めて声をかけることが基本となります。
- ・気持ちの良いあいさつは、人と人とのつながりを深め、毎日をすがすがしく過ごすためにとても大切なものとなります。
- ・犯罪を企てようとする者は、あいさつや声かけで目撃されることを嫌がり、悪巧みを止めるといわれています。地域でのあいさつ運動は、身近な犯罪を防ぐ上で大きな力となります。
- ・出会った人に「あいさつ」を励行することで、登下校する児童や生徒たちの様子を見守り、地域の連携を強め、また不審者に対する抑止力が高まります。
- ・地域社会の結びつきを強め、子どもたちがのびのびと育つ、安全で安心な住みよい社会を築くためにも、「あいさつ日本一運動」は、ぬくもりを感じる「みやま市」につながります。

◎あいさつ日本一運動の成果と課題

成果について

- ・小中校学生のあいさつ運動は浸透し、よくあいさつができています。

課題について

- ・大人のあいさつの浸透が今一つである。
- ・マンネリ化をしています。



↑まいピア高田



↑あいさつ日本一運動ジャケット



↑講義会場



↑あいさつ日本一運動推進室

■ 視察成果による当局への提言または要望等：

あいさつは、コミュニケーションの第一歩であるため重視していることが分かりました。あいさつは、地域社会を円滑にし、子供と大人との地域連携を強めることで不審者に対する抑止力になることを理解できました。しかし、大人同士のあいさつ習慣は、まだ広まっていない様子であり、さらに年月を重ねたときの街の様子を確認する必要があると思います。

しかしながら、桐生市では、老若男女に関係なく、誰もがあいさつができる街になればよいと思います。そのための一歩として、市民対応の向上及び人との繋がりを生み出し、社会が幸福になることを含めてあいさつ強化週間の設定を要望します。一般社団法人日本あいさつ検定協会により制定されている11月13日「あいさつの日」に合わせて行うことが効果的と考えます。

以上